

2016年10月27日

アメリカ合衆国大統領

バラク・オバマ 殿

日本原水爆被害者団体協議会

**国連第1委員会での核兵器禁止条約交渉開始決議案採決に当たって
「反対」するよう同盟国に圧力をかけることは直ちにやめてください
「核兵器のない世界」の実現へ今こそ貴国が勇気を発揮するときです**

報道によると、米政府は、NATO加盟国に配布した17日付文書で、核兵器禁止条約に対して「第2次世界大戦後の安全保障体制を下支えしてきた長年の戦略的安定性を損ねうる」とのべ、「核兵器、通常兵器、ミサイル防衛能力の適切な融合に基づいた抑止力はNATOの戦略の核心要素であり、NATOは核の同盟であり続ける」と強調し、オーストリアやメキシコなど非核保有国が提案する核兵器の法的禁止を求める決議案は「抑止力を非正当化し、NATOの基本政策と矛盾する」として、採決に当たって棄権ではなく反対するよう全NATO加盟国と友好国に呼びかけ、仮に採択されて交渉が始まっても参加しないよう求めています。

オバマ大統領は、今年の5月27日、世界で唯一の戦争被爆国であり、世界史で初めて非人道的核爆発による被害を被った広島を訪れ、爆心地そばの被爆者慰霊碑の前で演説し、「私たちが作り上げる国家や同盟は、自らを防衛する手段を持つ必要があります。しかし私自身の国と同様、核を保有する国々は、恐怖の論理から逃れ、核兵器のない世界を追求する勇気を持たなければなりません」と呼びかけました。いま世界の大勢が、「核兵器のない世界」をつくろうと知恵と力を出し合っているさなか、貴国の同盟国に対し、大統領のいう「恐怖の論理」をかざして核兵器の法的禁止を求める決議案に反対するよう圧力をかけるとは、二枚舌を使うような行為であり、到底許されるものではありません。

わたしたち被爆者が、非人道的被害を被って心と体に刻み付けたことは「ふたたび被爆者をつくるな」ということです。決してこの地球上で核兵器を使用させてはならないということです。世界で唯一、大量、無差別殺りくの核兵器を使用した米国の大統領として、いまこそ「核兵器のない世界」を実現する勇気を発揮してください。果敢なる決断を強く望みます。